

経過のご報告: 日本リハビリテーション医学会が進めている震災後の対応 (2011/3/23現在)

日本リハビリテーション医学会理事長 里宇明元

かつて経験したことのない深刻かつ広範な被害をもたらしている今回の大震災に直面し、日本リハビリテーション医学会は、リハビリテーション医学・医療の専門家集団として、被災地域の学会員を支援しながら、関係団体、行政等との密な連携のもとに、被災者の支援、特に災害弱者である高齢者、障害児・者の生活支援、リハビリテーション医療支援、廃用・二次障害の予防に向けて、以下の取り組みを行ってまいりました。状況は時々刻々と変化しておりますが、会員の皆様にこれまでの経過の概要をご報告いたします。この国家的難局に際し、学会をあげて取り組んでいく決意ですので、会員の皆様におかれましては引き続き、ご支援、ご協力のほどよろしく願いたします。

月日	おもな活動内容
3月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災対策本部を立ち上げ(本部長: 里宇理事長)</li> </ul>
3月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>未明に評議員・専門医宛に安否・被災状況確認メールを発信</li> </ul>
3月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災対応ワーキンググループ(WG)発足(住田監事、佐浦理事、菅理事、田中近畿地方会代表幹事)</li> <li>吉永理事に常任理事代行を委嘱。役員会で、震災への対応、学会通常業務の遂行体制を確認。</li> <li>リハビリテーション関連5団体(理学療法士協会、作業療法士協会、言語聴覚士協会、リハビリテーション病院施設協会)に連携を要請。</li> </ul>
3月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災対応WGより当面の対応について提言</li> </ul>
3月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北大学 上月常任理事と現地状況、当面のニーズについて情報交換。</li> <li>安否・被災状況確認メールへの返信状況を整理。</li> <li>理事長メッセージを会員にメルマガで発信。</li> </ul>
3月16日	<ol style="list-style-type: none"> <li>東北大学より仙台市内の急性期病院入院中のリハビリテーション科患者受け入れの要請あり。各地方会に受け入れ可能施設とサポートスタッフのリストアップを要請、リハビリテーション病院施設協会にも協力を要請。移送手段について宮城県と交渉し、大型バスを確保。</li> <li>東北大学で被災地への医療キャラバン隊がスタート。リハ医2名も同行。</li> <li>震災後のリハ支援、生活支援を多職種協働で行う「生活機能対応専門職チーム」が発足(リハ医学会、PT協会、OT協会、ST協会、介護福祉士会、介護支援専門員協会、精神保健福祉士協会、医療社会事業協会、臨床心理士会、心理臨床学会、カウンセリング学会、トラウマスティックストレス学会、全社協、事務局: 長寿医療研究センター)。</li> <li>報道関係3社と情報交換。</li> </ol>
3月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北大学への緊急物資支援について各地方会に要請。</li> <li>東北大リハ科はgeneralistとしての医療提供に注力。</li> <li>厚生労働省保険局医療課長、介護保険課長、医政局指導課(これまでの学会の取り組みを報告し、今後、必要になると予想されるリハビリテーション医学・医療の観点からの支</li> </ul>

	<p>援について提言。</p>
3月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災対応WG開催、情報センター設置等について提言。</li> <li>専門医会に、災害急性期にリハとして現場で実行可能なこと、行うべきことの指針の作成を要請。</li> </ul>
3月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災対応WG開催、当面の対応について提言。</li> <li>現地での診療支援および物資の支援について、会員にメルマガで発信。</li> <li>報道関係者と情報交換。</li> </ul>
3月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>厚生労働省保険局医療課、介護保健課に、全国各地に移動する被災者に対する、1)リハ専門職による検診・廃用予防対応、2)集中リハが必要な被災者のスクリーニングと回復期リハ病棟等での受け入れ、3)避難先で必要とされている補装具・介護福祉機器の調査・調達、の必要性を提言。</li> <li>厚生労働省保険局医療課、介護保健課に、大震災時における口腔ケアの重要性を提言し、神戸常磐短期大学口腔保健学科足立了平先生作成のパンフレットを送付。</li> <li>PT協会、OT協会、ST協会に上記活動における連携を提案。</li> <li>報道関係者と情報交換。</li> <li>リハビリテーション医学会震災関連情報センターを立ち上げ(川崎医大 椿原理事、鹿児島大学 川平理事、池田先生、システム・広報委員会担当 菅先生、回復期リハ協議会副会長 園田先生)。情報収集、管理、発信を一元化。</li> <li>情報センターより情報発信。</li> <li>リハ患者受入れ病院リストを会員ページに掲載(57施設)。</li> </ul>
3月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生活機能対応専門職チーム」にこれまでのリハビリテーション医学会の活動内容・経過を報告。</li> <li>各地域における被災者受入れに関し、各地方会に情報収集、対応体制の検討を要請。専門医会に検診用のチェックリストの作成と指導・教育に活用可能なパンフレット等の収集を要請。</li> <li>大震災が学会各種委員会、専門医会、地方会等の業務に与える影響を調査。</li> <li>情報センターより情報発信。</li> </ul>
3月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>会員掲示板「支援要請／支援します」コーナーを開設(被災地現地の会員と全国の会員とのマッチング用)。</li> <li>義肢装具学会に連携を要請。義肢協会・日本理学療法機器工業会の関連情報を収集。</li> <li>情報センターより情報発信。</li> </ul>
3月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>学会ホームページに「東北地方太平洋沖地震リハ支援関連情報」サイトを立ち上げ。</li> <li>厚生労働省保険局介護保健課と情報交換。</li> <li>「生活機能対応専門職チーム」による現地活動への第一次派遣者を決定。</li> <li>東京都および埼玉県における被災者受入れ状況について情報収集。</li> <li>日本医療社会事業協会災害対策本部と情報交換。</li> <li>リハ患者受入れ病院リストを会員ページに掲載(91施設)。</li> <li>情報センターより情報発信。</li> </ul>